

令和元年度 磐田市立磐田北小学校 学校評価書

| 重点             | 目標・取組           | 評価指標                            | 自己評価 | 考察・改善策                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 学校関係者評価委員から                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------|-----------------|---------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対話を生み出す学びづくり   | 本気で聴いて、つなげる授業   | 授業がよく分かる子 目標90%                 | A    | <児童回答90.5%(昨年度86.5%)、教師回答89.0%(昨年度96.0%)><br>○児童回答数値が目標を達成した。平成30年度から日課表にぐんぐんタイムを設けて学習内容の定着を図っている。今後も基礎や発展問題のプリントやドリル学習等で、個に応じた学習を継続していく。職員の回答が下がった。指導が行き届いていないと感じている。<br>※教育支援員と連携して個に応じた支援・指導に配慮しながら、一斉学習ばかりではなく、対話的で主体的に学ぶ授業を展開できるよう、今後も、授業研究や研修を進めていく。                                       | ○どのクラスも本時のめあてを青チヨークで囲んであった。この時間にどんな学習をするのかということを子どもがしっかり分かる。そのことが徹底されていた。<br>○英語を学ぶ機会を重視したい。将来に生きる力になる。<br>○ぐんぐんタイムでは子どもはどのように学習に取り組むのか。一斉授業の延長ではなく、子ども一人一人に対して具体的に支援してやってほしい。                                                                           |
|                |                 | 友達の発言につなげて考えられた子 目標80%          | B    | <児童回答75.8%(昨年度59.9%)><br>○児童の回答数値が、目標値には届かなかったものの昨年度より大きく上回った。毎週水曜日の朝15分間の活動に設定しているコミュニケーション・トレーニング(コミュトレ)の成果として、相手の話を聞き取ろうと意識する児童が多くなった点が挙げられる。よつば学府(小中一貫校)で足並みを揃え、指導形式を統一して形から学んだ効果があった。教師自身も「子どもの声を聴く」ことを意識して指導した。<br>※今回の成果を、子どもの深い学びにつなげたい。中学卒業時に「正確に聞き取り、受容・共感・質問できる よい聴き手」となれるよう、指導を継続する。 | ○のびのびしている。大きな声で自分の考えを言える。<br>○子どもが発表をすると、その子に質問する子が見られた。また、みんなの前で話す子はみんなの顔を見ながら発表していた。どの子も目が生き生きしていた。指導者の成果だと思う。教室に足を踏み入れるだけで、空気が違うと感じた。<br>○児童の発表を聞く教師の姿勢がよかった。児童の目線になって(しゃがんで)話を聞いていた。<br>○よつば学府(小中一貫校)で統一してコミュトレを実践しているのがよい。ノーレレビデオのようなよい取組は統一できるとよい。 |
| 自尊感情を進める仲間づくり  | 元気にあいさつ、広がるやさしさ | まわりの人にあいさつをする子 目標90%            | A    | <児童回答90.0%(昨年度88.8%)、教師回答80.3%(昨年度58.0%)><br>○児童回答数値が目標を達成した。挨拶の意識が高まっていることを自覚できている。地域の方からも「あいさつがよくなった」と喜びの声が聞かれた。相手に伝わるようなあいさつをする子が増えてきた。また、高学年児童には会釈をしたり、来校者にあいさつしたりする姿も見られる。<br>※低・中学年児童の元気なあいさつ等の表れを認め励まししながら、いっそうの意識向上を図る。高学年児童を手本とすることで、あいさつの輪が自然に広がるようにしたい。                               | ○登校するときの児童のあいさつが変わってきた。ずいぶんよくなった。うれしく思っている。<br>○児童と教師、保護者の回答数値に差がある。校内で活動している姿と校外での姿は違う。いろいろな視点はあがあるが、分析の仕方や指標について協議することがあってもよい。<br>○あいさつを能動的にできる子にしたい。これなら地域として関わることができる。                                                                               |
|                |                 | 学級にはお互いにルールを守り、協力する雰囲気がある 目標90% | B    | <児童回答81.0%(昨年度76.1%)、教師回答90.0%(昨年度83.0%)><br>○昨年度に比べて改善したものの、児童の回答数値が目標に到達していない。一方、教師側は目標達成数値となったことから、教師の思いと児童の思いにずれがあると捉えた。<br>※教師が児童の思いを受け止め切れていないならば、学校生活を楽しむことや学級づくりにつながらないこともある。児童の声に耳を傾け、学級や学習の課題を解決しようと一緒に考えながら、子どもの学びを支援・指導することを大事にする。児童と一緒にどんな学級を作りたいか話し合い、目指す学級を設定する。                  | ○トイレや靴箱がいつもきれいな状態になっている。<br>○画一的になっていないか。もう少し個性が見られてもよいのではないかと。<br>○1年生担当教師が、子どものよいところを他児にも聞こえるように大きな声でほめる指導をしていることに感心した。<br>○グループ学習を通して協調性を高めようとする取組がよい。これからの時代、社会で求められる力は協調性である。                                                                       |
|                |                 | 学校に楽しく通っている 目標90%               | B    | <児童回答88.0%(昨年度87.3%)、教師回答96.0%(昨年度98.0%)><br>○教師の回答数値が高いにもかかわらず児童の数値は低いことから、認識にずれがあると捉えた。学校生活に不安を感じる、または、満足していないという子がいると捉える。<br>※一人一人に居場所がある学級・学校づくりに努める。子どもが中心となって進める係活動を充実させたり、委員会活動の回数を増やしたりすることで、自己有用感の向上を図ったり、委員会のイベントに参加できる機会を増やしたりして、学校生活を楽しめるようにする。                                      | ○低学年が慣れてきている姿、中学年がのびのび学んでいる姿、高学年が真面目に取り組んでいる姿が見られた。<br>○運動会での児童応援席を見て、皆の心がまとまっている、そろっているように感じた。                                                                                                                                                          |
| 努力のよさを感得する体づくり | やる気レと根気で        | よりよい自分を表現しようと、努力のよさを感じる子 目標80%  | A    | <児童回答90.6%(昨年度80.1%)><br>○児童の回答数値が大幅に上がった。運動会や長縄大会、持久走記録会などに向けて、目標をもって活動してきた成果だと考える。特に、級友と一緒に声を掛け合いながら練習できたことが児童の実感としての満足感につながったと思われる。<br>※個人で目標をもって取り組む活動では、活動後の振り返りを意識的に行うようにする。健康管理の意識を高め、手洗いうがいをしたり、マスクを着けたりする点の指導を徹底する。                                                                     | ○ボール投げや走力、30分間回泳など、体力向上に関わる取組への意識を継続してもらいたい。水泳や陸上の大会がなくなったが、児童にとって目標になることを設定するなどの工夫をしてもらいたい。<br>○磐田北小学校では、インフルエンザの流行が大きく広がることがなかったのは、よかった。マスクもつけていた。                                                                                                     |

学校関係者評価を受けてのまとめ

- 学習内容の定着を図る「ぐんぐんタイム」では、個に応じた具体的な支援が必要だと感じた。一斉指導にするのではなく、一人一人が学習を進められるよう、補習指導をしたり、発展プリントを用意したりする。
- 授業のめあてを明確にする手立てやよつば学府統一で実践しているコミュトレなどのように、決めたことを教師がきちんと指導することの大切さを感じた。
- 地域の方々と連携し、あいさつの輪を広げたい。教師からの一方的な指導ではなく、委員会活動を主体として子どもから発信したあいさつ運動が広がっていくようにしたい。
- 体力向上に関わる取組を具体的に進める。縄跳びやおに遊びなど楽しく活動するものだけでなく、目標設定を工夫し、めあてに向かって努力する機会を設けることも大事に捉え、体力向上につなげたい。